

# JIS

## 培地の試験方法—通則

JIS K 3701 : 2008

(JBA/JSA)

平成 20 年 3 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会標準部会 化学製品技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	宮 入 裕 夫	東京電機大学
(委員)	大 石 奈津子	財団法人日本消費者協会
	奥 山 通 夫	社団法人日本ゴム協会
	笠 野 英 秋	拓殖大学
	加 茂 徹	独立行政法人産業技術総合研究所
	田 中 誠	財団法人鉄道総合技術研究所
	高 野 忠 夫	財団法人化学技術戦略推進機構
	高 橋 信 弘	東京農工大学
	西 川 輝 彦	石油連盟
	西 本 右 子	神奈川大学
	林 田 昭 司	社団法人日本化学工業協会
	堀 友 繁	財団法人バイオインダストリー協会
	中 田 亜洲生	昭和シェル石油株式会社
	村 重 正 行	日本プラスチック工業連盟
(専門委員)	村 井 陸	財団法人日本規格協会

---

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 20.3.20

官 報 公 示：平成 20.3.21

原 案 作 成 者：財団法人バイオインダストリー協会

(〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-26-9 グランデビルディング TEL 03-5541-2731)

財団法人日本規格協会

(〒107-8440 東京都港区赤坂 4-1-24 TEL 03-5770-1571)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 二瓶 好正)

審議専門委員会：化学製品技術専門委員会 (委員長 宮入 裕夫)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 基準認証ユニット産業基盤標準化推進室 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

## まえがき

この規格は、工業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、財団法人バイオインダストリー協会(JBA)及び財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本工業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権又は出願公開後の実用新案登録出願に係る確認について、責任はもたない。

## 目 次

	ページ
序文	1
1. 適用範囲	1
2. 引用規格	1
3. 定義	2
4. 試験施設	2
4.1 試験区域	2
4.2 その他の区域	2
4.3 施設の位置	3
4.4 施設の準備	3
4.5 保守点検	3
5. 設備及び機器	4
5.1 培地操作用キャビネット	4
5.2 はかり	4
5.3 ホモジナイザー	4
5.4 pH 計	5
5.5 オートクレーブ	5
5.6 インキュベーター	5
5.7 冷蔵庫	6
5.8 冷凍庫	6
5.9 恒温水槽	6
5.10 オープン	7
5.11 電子レンジ	7
5.12 光学顕微鏡	7
5.13 ガスバーナー又は白金線滅菌器	7
5.14 培地及び試薬分注器	7
5.15 かき混ぜ機	7
5.16 コロニー計数器	8
5.17 環境を変えて培養する装置	8
5.18 その他の器具	8
6. 作業	8
6.1 適格性	8
6.2 衛生	8
7. 器具の準備	8
7.1 滅菌	9
7.2 使い捨て器具	9

	ページ
7.3 清浄な器具の管理	9
7.4 滅菌済みの器具の管理	9
7.5 汚染除去	9
7.6 洗浄	9
8. 培地の調製及び滅菌	9
8.1 培地の調製	10
8.2 試薬及び培地の滅菌	10
8.3 保存	10
8.4 寒天培地の融解	11
8.5 培地の脱気	11
8.6 シャーレにおける寒天平板培地の調製	11
9. 試料	11
9.1 試料の採取	11
9.2 輸送	11
9.3 受領及び保存	11
9.4 試験試料	12
9.5 試料の保存及び廃棄	12
10. 試験方法及び試験結果の表記	12
10.1 予防措置	12
10.2 試料懸濁液及び希釈系列の調製	13
10.3 固形培地の試験	13
10.4 液体培地の試験（最確数法）	19
10.5 検出試験法	21
10.6 基本的な同定法	22
附属書 A（規定）推定数の信頼区間	25
附属書 B（規定）最確数（MPN）表	27
附属書 1（参考）JIS と対応する国際規格との対比表	30
解 説	33

白 紙

## 培地の試験方法—通則

### Culture media—General rules for microbiological examinations

**序文** この規格は、1996年に第1版として発行された ISO 7218:1996, Microbiology of food and animal feeding stuffs—General rules for microbiological examinations 及び AMENDMENT 1(2001) を翻訳し、技術的内容を変更して作成した日本工業規格である。ただし、追補 (AMENDMENT) については、編集し、一体とした。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格を変更している事項である。変更の一覧表をその説明を付けて、**附属書 1 (参考)** に示す。

**1. 適用範囲** この規格は、微生物の検出を目的とする培地試験の通則について規定する。

**備考** この規格の対応国際規格を、次に示す。

なお、対応の程度を表す記号は、ISO/IEC Guide 21 に基づき、IDT (一致している)、MOD (修正している)、NEQ (同等でない) とする。

ISO 7218:1996, Microbiology of food and animal feeding stuffs—General rules for microbiological examinations, and AMENDMENT 1(MOD)

**2. 引用規格** 次に掲げる規格は、この規格に引用されることによって、この規格の規定の一部を構成する。これらの引用規格は、その最新版 (追補を含む。) を適用する。

JIS B 9922 クリーンベンチ

JIS K 3702 培地の試験方法—試料懸濁液及び希釈系列の調製方法

**備考** ISO 6887-1:1999, Microbiology of food and animal feeding stuffs—Preparation of test samples, initial suspension and decimal dilutions for microbiological examination—Part 1: General rules for the preparation of the initial suspension and decimal dilutions からの引用事項は、この規格の該当事項と同等である。

JIS K 3703-1 コアグラゼ陽性ブドウ球菌 (黄色ブドウ球菌など) の菌数測定方法—第1部:ベアード・パーカー寒天培地

JIS K 3703-2 コアグラゼ陽性ブドウ球菌 (黄色ブドウ球菌など) の菌数測定方法—第2部:ウサギ血しょう(漿)フィブリノーゲン寒天培地

JIS K 3703-3 コアグラゼ陽性ブドウ球菌 (黄色ブドウ球菌など) の菌数測定方法—第3部:低菌数の検出法及び最確数 (MPN) 法による生菌数測定法

JIS K 3704 培地の試験方法—大腸菌用検出培地

JIS K 3705 培地の試験方法—サルモネラ属菌用培地—サルモネラ属菌の検出

JIS K 3706-1 培地の試験方法—リステリア・モノサイトゲネス用培地—第1部:リステリア・モノサイトゲネスの検出